

# ココエキ

公益法人向け  
情報誌

## 特集 新しい時代の公益法人活動



【レポート】

公益法人制度改革の方向性について

【インタビュー】

公益財団法人似鳥国際奨学財団・公益財団法人似鳥文化財団  
独立行政法人日本芸術文化振興会  
公益財団法人山種美術財団

【SDGsに取り組む団体のご紹介】

東京都住宅供給公社(JKK東京)

いっしょに、明日のこと。  
Share the Future

 SMBC日興証券

No.22

# CONTENTS

## 特集 新しい時代の公益法人活動

### レポート

- **公益法人制度改革の方向性について** \_\_\_\_\_ 3  
SMBC日興証券株式会社 公益法人業務部 制度調査課  
主任研究員 河田 剛

### インタビュー

- **ビジョンから生まれる社会貢献** \_\_\_\_\_ 9  
公益財団法人似鳥国際奨学財団  
公益財団法人似鳥文化財団  
代表理事 似鳥 昭雄 氏
- **日本が誇る文化芸術を守り、つなげる** \_\_\_\_\_ 16  
独立行政法人日本芸術文化振興会  
理事長 長谷川 眞理子 氏
- **日本画を通じた社会貢献** \_\_\_\_\_ 23  
公益財団法人山種美術財団  
理事長 山崎 妙子 氏

## SDGs に取り組む団体のご紹介 第5回 \_\_\_\_\_ 32

- 東京都住宅供給公社（JKK 東京）

### ■ 表紙作者

大阪芸術大学 芸術学部 デザイン学科 松本 大志さん

9月の風物詩であるお月見と月見団子を描きました。夏と秋の変わり目なので涼しい雰囲気にしました。

### ■ ロゴデザイン作者

大阪芸術大学 芸術学部 デザイン学科 長谷川 果音さん

青や黄緑を使い、爽やかで親しみやすいようなイメージで制作しました。「こうえき」はカクカクっぽく仕上げたので、花をつけてやわらかさを足しました。



- \* 本資料に記載の全ての内容は、別段の表示がない限り、その作成時点において施行されている法令に基づき作成したものでありますが、将来、法令の解釈が変更されたり、制度の改正や新たな法令の施行等がなされる可能性があります。
- \* 実際の取引等をご検討の際には、今後の制度改革の動きに加え、具体的な実務動向や法解釈の動き等にご留意いただき、所轄の税務署や弁護士、公認会計士、税理士等の専門家にご相談の上、お客様の最終判断をもって行っていただきますよう、お願い申し上げます。

## 公益法人制度改革の方向性について

SMBC日興証券株式会社  
公益法人業務部 制度調査課  
主任研究員 河田 剛

### はじめに

2023年6月2日、新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議が今後の公益法人制度の方向性に関して最終報告を公表した。今後、この報告を基に内閣府等で検討が進められ、2024年以降、国会に法案が提出されるとみられる。

現在の公益法人制度は2008年12月に施行された「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」のいわゆる公益法人制度改革関連3法に準拠している。しかし、事業の運営に際して一部不具合も指摘されており、新規の公益法人認定が停滞する一因にもなっている。

政府の「新しい資本主義」構想においては「民間も公的役割を担う社会を実現」することが柱の一つとなっており、最終報告においては、「新しい資本主義の実現に向けて、社会のあらゆる分野で民間非営利部門の主たる担い手となっている公益法人は、税制上の優遇措置が設けられている趣旨も十分に踏まえ、裾野を広げるとともに公益的活動を更に積極的に行っていくことが求められる。」としている。これに伴い、「事業の適正な実施を確保しつつ、公益的活動の持続性・発展性や法人の経営戦略を積極的に後押しするという発想に転換した上で、法人が社会的課題の変化等に対応し、より柔軟・迅速で効果的な公益的活動を展開していくことができるよう法人の自主的・自律的な経営判断がより尊重される仕組みにしていく必要がある。」と述べている。

### 1. 財務基準の柔軟化

#### (1) 収支相償原則の見直し

---

これまで公益法人の活動の制約になってきた財務基準の一つに「収支相償原則」がある。公益目的事業の収入と費用を均衡させるというルールである。本来は中長期的な均衡を意図しているが、実際には単年度における収支相償が重視される傾向があった。一方、過去の赤字の繰り延べは出来ないため、資金が蓄積できず、公益法人が事業を拡大させるための障害となっていた。積立金である特定費用準備資金、資産取得資金の用途が限定されていることや、寄附を受け入れる場合、収益から除外するためには指定正味財産として繰り入れる必要があるが、寄附者が用途を厳密に指定する必要があることなどが事業の制約となってきた。

このため、①収支均衡は中長期（5年程度を想定）で判断することを明示する、その際に過去の赤字を含める、②従来の公益目的事業ごとの判定ではなく、公益目的事業全体で判断する、③公益充実資金（仮称）を創設し、大きなくくりでの設定や認定前の新規事業のための積立も可能とする、④指定正味財産の用途について、公益目的事業全体などの大まかな設定を可能とする、などの方針が打ち出された。

## (2) 遊休財産の見直し

公益法人制度においては、法人全体で公益目的事業費1年相当分を超えて遊休財産を保有してはならないこととされている。このため、公益法人は余裕資金に乏しく、コロナ禍においては公益財団法人の形態をとるオーケストラなどが収入の減少から経営難に陥る状況がみられ、安定的な事業運営の足かせとなっている。また、遊休財産上限額の算定根拠が不安定であるという問題もあった。

今回の報告では、遊休財産が公益目的事業費1年分を合理的な理由で超過した場合、①法人自ら、「超過した理由」及び「超過額を将来の公益目的事業に使用する旨」を行政庁の定める様式に記載し、開示することで明らかにする、②貸借対照表の内訳表により財務状況を透明化し、超過額が公益目的事業のために使用されることを明確化する、③翌事業年度以降も上限額を超過している状態が継続している場合、そのことに引き続き合理的な理由があるか、また超過額の公益目的事業への使用状況等をフォローアップする、ことが提言されている。また、上限額の基準となる1年相当分の公益目的事業費について、現行の「当該事業年度の公益目的事業費」から、「前事業年度までの5年間の公益目的事業費の平均額」に改めるとしている。

## 2. 柔軟・迅速な事業展開のための行政手続の簡素化・合理化

これまで、公益法人関係の手続きは非常に煩雑であるとの指摘があった。これをより簡素化・

---

合理化する方向性が打ち出されている。

#### (1) 公益認定・変更認定手続の柔軟化・迅速化

公益法人が事業内容を変更する際に、再度認定を必要とする事項が多く、法人の負担になってきた。これを簡素化・合理化しようとするものである。

事業の変更において、本質的な変化がない場合には届出事項とすることや、審査の迅速化を進めるとしている。

#### (2) 合併手続等の柔軟化・迅速化

公益法人の合併にあたっては、法人の形態ごとに手続きが異なっており、わかりにくいとの指摘があった。吸収合併の際には被合併法人の事業をそのまま引き継ぐのであれば、届出事項とすることや審査の迅速化、合併手続のマニュアル化、周知を図るとしている。

### 3. ガバナンスの充実

上記の柔軟化の一方で、ガバナンスの強化、運営の透明性の確保も要請されている。

#### (1) 法人運営に関する情報開示の充実

役員の利益相反取引などの取引情報、役職ごとの役員報酬など新たに開示情報を追加する、法人の財産目録等の情報開示についてはウェブサイトなどで広く公表する努力義務を設け、情報開示を促進することが提言されている。また、行政庁は提供を受けた財産目録等を一般に開示するとしている。

#### (2) わかりやすい財務情報の開示

公益法人は公益目的事業会計・収益事業等会計・法人会計の区分経理が求められており、損益計算書、貸借対照表の内訳表を作成しているが、収益事業の無い法人など一部の法人では作成が免除されている。

一方で財務基準への適合判定のための別表作成が求められている。また、公益認定取り消しの際に財産を贈与する際の算定根拠となる公益目的取得財産残額（これも別表に含まれる）を毎年複雑な計算を行って報告しなくてはならない。これらの作業は非常に煩雑で負担となっている。

---

このため、損益計算書、貸借対照表の内訳表の作成を全ての法人に求める一方で、別表、公益目的取得財産残額の算出を損益計算書、貸借対照表に集約して作業の簡素化を図る方向性が打ち出されている。

なお、現在公益法人に関する情報は開示場所が散在しており、一元的なプラットフォームを整備することとしている。

### (3) 法人の自律的なガバナンスの充実

法人が自主的に取り組んだガバナンス強化策を事業報告書等に記載する。外部理事・監事（それぞれ1人以上）を導入する。理事・監事間の特別利害関係を排除することなどが示されている。

会計監査人を必置する法人については、現行の「収益1000億円・費用損失1000億円・負債50億円以上」の基準を変更することを検討するとともに、必置でない法人についても監査機能の向上を図るものとしている。

評議員については評議員選定委員会を設置して選任することが推奨されている。

法人の負担が大きい立入検査は、現状は定期的に一律で行われているが、内外の通報や省庁間の連携から得られた情報をもとに重点的な検査を行う体制にシフトを進める。また事後チェックの手法を確立し、基準の明確化を図るとしている。

## 4. 民間による公益的活動の活性化のための環境整備

### (1) 公益信託制度改革

公益信託は個人や法人が信託銀行に財産を寄託し、信託銀行は指定された公益目的に合わせて財産を運用・管理する制度である。この制度の認定・監督を公益認定制度と一体化し、シナジー効果を生むような制度設計を図るとしている。

### (2) 公益法人による出資等の資金供給

公益法人の資産運用における株式保有は現状では限定的となっている。一方、欧米等ではインパクト投資の手段としての株式所有は一般的である。このため、資産運用における株式保有等について公益法人認定法による制約をより具体的に明確化する、公益法人の出資に際して社会的課題解決に資する資金供給の一環として公益性を認定する際の考え方・基準を整理・明確

---

化する、としている。

このほか、公益法人行政の DX の推進、法人・経済界・中間支援団体・士業団体等と行政庁とのコミュニケーションの推進、インパクト測定・マネジメントについての調査、普及を内閣府が進めることなどが提言されている。

## おわりに

公益法人に対する厳格な規制は、現制度導入時に非課税措置との見合いで導入された側面がある。非課税の公益法人が行う事業と民間企業が行う事業のイコールフィッティングについても論点とされた。

しかし、法人税が引き下げられ、企業に対する各種の税優遇措置が導入されている点を鑑みると、この論点は根拠が薄弱になっていると思われる。また公益法人の余裕資金が規制により最小限となっていることは、事業の拡大の制約となっており、また、コロナ禍のような事態に対しては極めて脆弱となっている。

今回の報告は、このような状況から脱却する第一歩ではあると考えられる。しかし、抜本的な改革ではなく、基本的には従来 of 制度の手直しである点には注意が必要である。

曖昧になっている点も多い。中期的な収支均衡の基準も現時点では明確ではない。また公益事業のために借り入れた資金の返済が費用とみなされるかも定かではない。

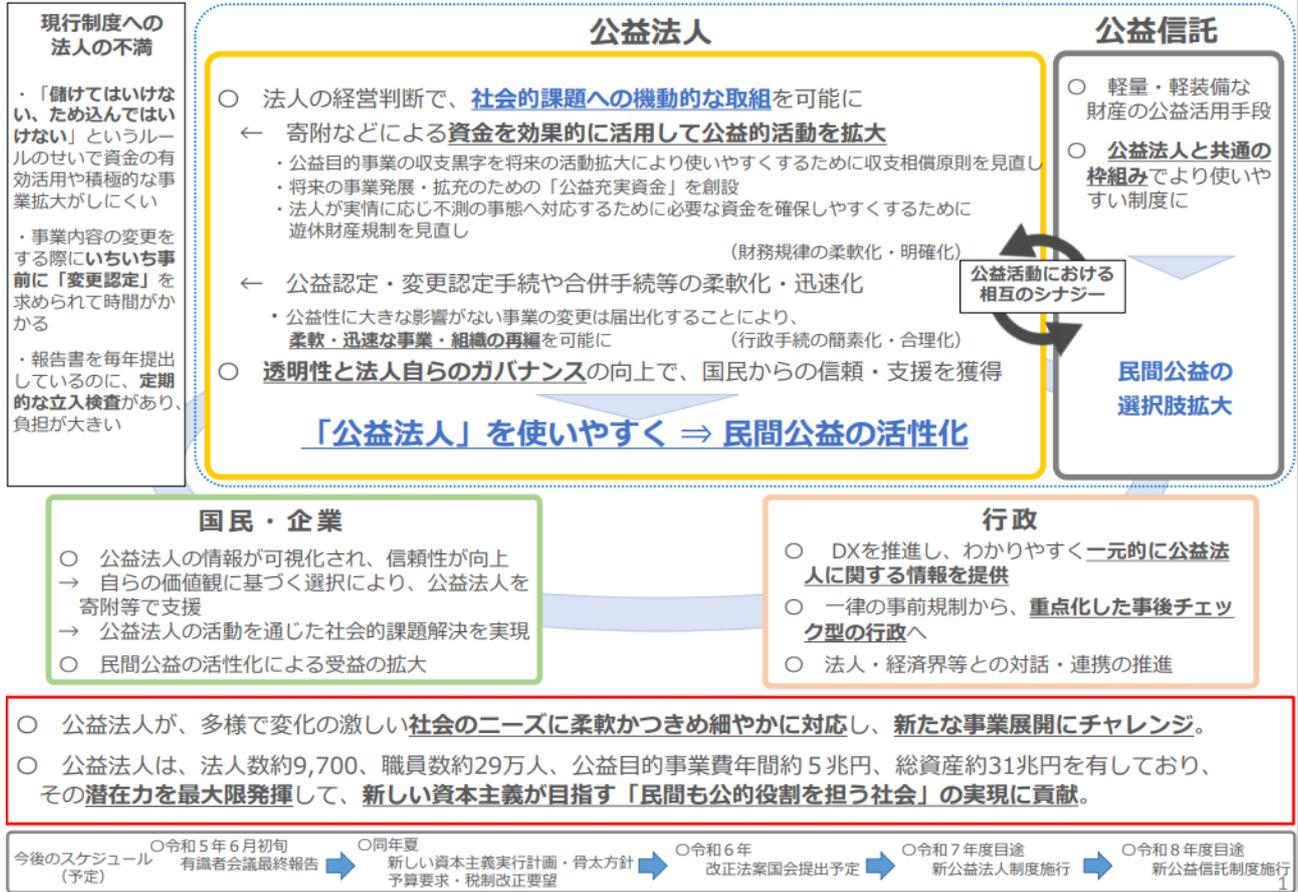
また、経営の安定化のためには積立金の保有、遊休財産の保有の柔軟化が必須であるが、新設の公益充実資金（仮称）の要件は明確ではなく、遊休財産の保有についても小幅な変更のように見受けられる。この点は資産運用上の制約にもつながっており、公益法人が債券運用に傾斜する要因ともなっている。

今後、法改正とともに内閣府令、ガイドラインが策定されているが、可能な限り公益法人運営の自由度を高める方向での改革が望まれる。

## 図 公益法人制度改革の概要

### 新しい資本主義の実現に向けた公益法人制度改革

令和5年6月2日 内閣府大臣官房公益法人行政担当室



(出所) 内閣府大臣官房公益法人行政担当室

## 参考文献

公益財団法人公益法人協会 2023 『内閣府『新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議』最終報告をめぐって』

内閣府 2023 『新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議 最終報告』

## ビジョンから生まれる社会貢献



公益財団法人似鳥国際奨学財団  
公益財団法人似鳥文化財団  
代表理事

似鳥 昭雄氏

ニトリ創業者。株式会社ニトリホールディングス代表取締役会長兼 CEO。  
1944 年、樺太生まれ。

66 年、北海学園大学経済学部卒業。67 年、似鳥家具店を札幌で創業。72 年、米国視察ツアーに参加。同年、似鳥家具卸センター株式会社を設立。86 年、社名を株式会社ニトリに変更。2010 年、持ち株会社へ移行。2023 年 3 月期舗数は 902 店舗、現在 33 期連続の増収増益で単独世界 1 位であり、上場前を含めると 36 期増収増益を達成。

似鳥国際奨学財団はアジアを中心とする世界の学生を支援しています。似鳥文化財団は文化芸術への支援を通じて新しい文化形成に寄与を目指しています。自らの経験を踏まえて、自分のロマンを見つけ、実現に向けて成長できる会社、個々の長所を發揮できる社会の実現に向けた取り組みについて、似鳥代表理事にお伺いしました。

### 若者の勉学上の夢を支援

日興：まずは、似鳥国際奨学財団の概要と沿革についてお聞かせいただけますでしょうか。

似鳥：2003 年度にニトリを 100 店舗に増やして、年間売上を 1000 億円にするという 30 年計画を達成した後、私も 60 歳になり、ある程度成功できたことから社会貢献をしたいと考えました。アジア諸国で製造して仕入れた商品を日本の店で販売してきた現在に至るのですが、ここまで会社が大きくなれたのもアジア諸国のおかげだと思いました。そこで、諸国から日本に來ている学生に、無償で奨学金を提供することが一番の恩返しだと考え、2005 年に奨学財団を設立しました。個人所有の 400 万株を無償で出し、一株 1 万 7000 円で換算すると約 680 億円、配当金が約 5 億 8400 万円<sup>1</sup>となります。配当金を毎年、提供し続けることになっています。

当初は約 3 名の外国人留学生を対象としていましたが、50、100 名と増えていき、日本人大学生も 110 名を対象としています。高校生は 200 名、母子・父子家庭の中学生には 150 名を対象としています。中学生は 3 万円、高校生は 4 万円、大学生には 5 万円から 8 万円の奨学金を毎月支給しています。また、海外現地奨学金は 5 カ国の大学生を対象に約 800 名の方に支援しています。海外奨学金の支給人数は多いのですが、所得水準が低いため奨学金は日本の 2 分の 1 から 3 分の 1 を支給しています。

1 配当金は 2023 年 3 月期一株当たり年間配当金合計 146 円をもとに算出

---

寮もつくろうということで、今年、板橋区に40部屋の女子寮を購入しました。中を改装し、新築に近い形で募集して、約10名が入寮しました。年に2回募集するため、1、2年経つと満室になる予想です。

## 将来を託す人材の育成

日興：グローバルに優秀な人材の教育を目指して取り組まれているのですね。

似鳥：帰国後は、教育者や政治家、経済人、あるいは医療関係者と各分野でご活躍されています。財団設立から18、19年が経つため、1期生は40歳を過ぎています。中国の方が多いのですが、日本との懸け橋になって欲しいと期待しています。

ニトリに就職を希望されても実際に採用するのは3分の1から4分の1です。今年のニトリの就職人気ランキングは文系総合一位だったこともあり、いくら優秀な留学生や奨学生でも全員は採用できないのです。また、総合部門で4年連続人気企業ランキング1位のインターンシップは約10万人の申し込みがあり、選考後一部の方に会社を体験してもらいます。

「企業は人なり」として、ロマンとビジョンの達成は優秀な人材を入れることにかかっていると考えています。そのため、他の上場会社の5倍ほどの教育コストを費やしています。会社のためとか、社長や上役のためとかではなく、お客さまが喜んでくれる、お客さまが求めている店や商品をつくり上げていくことのできる技術を、ニトリという教室を利用して、自分に身につけて欲しいからです。

キャリアの大きな山は10年後のトレーニー試験と20年後のスペシャリスト試験です。40歳か41歳頃です。まず100名に合格してもらい、そこから200、300名と増えていくことで、日本一、世界一の技術者として認定を受けた方たちによって事業領域を拡大できるのです。

年間200店ペースで出店するためには、200名の店長が必要です。その他にエリアマネージャーやフロアマネージャーも必要です。また、海外店舗の出店も拡大していかなければなりません。そのためには人材の蓄積が不可欠ですが、ようやくそのような段階に来たところです。10年選手、店長になれる方が多数育ってきて、スペシャリスト試験に受かった方も数百名出てきました。いずれも日本トップレベルの技術者です。私どもの財産は人だと言っても過言ではありません。

## 積極的な人的交流

日興：奨学財団では、学生のときから支援して優秀な人材を育てているということですね。

---

似島：早い段階から優秀な人材として育ててほしい為、中学生、高校生から支援を行っています。

入団式は、中学や高校、大学の方で分けて、2022年は上半期と下半期をあわせて7回ありました。私の奨学生に向けた講話後、学生による発表会があります。研究テーマや、中学や高校で何を熱心に頑張っているかなどを話してもらいます。中学生、高校生でも驚異的な発表をする方が数多くいるのです。その後は食事をしながら、それぞれ歌やバイオリンなどの隠し芸を披露してもらったり、保護者の方には選んでいただいた弊社アパレル事業のN+（Nプラス）の商品を無料で提供したりします。最後は私が1曲か2曲歌って締めています。私どもも非常に楽しんで取り組んでいます。

また、OB・OG会もあり、2022年はボーリング大会を行いました。やはり一流の会社で働いているという事でじっくり懇親したいという希望が多いため、継続していきたいです。自分の国に帰った方のOB会はまだやっていないのですが、国内のニトリに就職し



15周年集合写真 似島国際奨学財団提供

た留学生もいれば、海外拠点に就職した留学生もいます。中国からの留学生は毎年200、300名採用しているのですが、日本語が話せて非常に優秀な人材が集まっています。中国は就職難と言われていますが、そのような面では優先的に就職ができるのです。私どもの会社はアジア各国にあり、マレーシアに8店舗を出店し、シンガポールにも出店しました。今後はタイ、ベトナム、フィリピン、韓国、インドネシアにも出店していくため、そういう地域にも奨学支援をしていきたいです。

## 自分のロマンを見つけキャリアを形成していく

日興：社内研修について具体的に伺えますでしょうか。

似島：20年前からニトリ大学というものに取り組んでいます。今年60歳になる定期採用で取締役になった女性が学長をやっています。入社から2年、3年と項目や科目ごとに行い、入社2年目は日本国内の研修で、見学というより調査です。3年目にはアメリカ研



アメリカセミナー研修  
ニトリホールディングス提供

修、その後はタイやベトナムなどの工場や店舗研修があります。30歳前後で、今度は上の店長クラスでもう一回アメリカに行くため、アメリカに何回も行っている方もいます。社員は7000

---

人ほどですが、1年間の延べ研修人数は1万4000人から1万5000人ほどになり、ものすごい金額をかけています。不景気でも20億、30億円をふんだんに使っています。コロナ禍はアメリカに行くことができなくて残念でした。以前は財団生の希望者もアメリカに連れていったりしていました。それから見聞を広めてもらおうということで、ニトリで研修をしたりしています。

アルバイトを二つ、三つ掛け持ちしている大学生や、家に帰る暇がない海外の方は、女性でもテントをはって公園で野宿しながらコンビニエンスストアで働いたり、転々としたりしている方もいました。それが奨学金を支給したことで、アルバイト一つで済むようになったという話も聞きました。その話を聞くと、奨学金事業をやっているよかったですと思います。

## 文化形成への寄与

日興：似鳥文化財団の概要と沿革についてもお聞かせいただけますでしょうか。

似鳥：日本の文化や芸術、伝統の発展や継承、支援を出来ないかと考え2011年に設立しました。2016年に開設した北海道の小樽芸術村は小樽市指定の歴史的建造物を活用した4館を運営し、今後も美術館を増やしていきたいと考えています。美術館の一つである「旧三井銀行小樽支店」は、2022年2月に重要文化財になり、指定されるまで4、5年かかりました。



似鳥美術館 旧北海道拓殖銀行小樽支店  
似鳥文化財団提供

また、所有している小樽の鯨御殿「銀鱗荘」は今年の2月に国の有形文化財に認定されました。釘を一本も使用しないで、宮大工がつくった非常に太い柱があります。



小樽の鯨御殿「銀鱗荘」  
ニトリホールディングス提供

さらに、日本海を望む小樽市のオタモイ海岸の100メートル以上の崖の上を散策した際に、できたらロープウェイもつくりたいということで、2021年に小樽商工会議所に5000万円を寄付しました。3年以内に遊歩道を整備する計画を立てていますが、財団、もしくは個人的に寄付することも考えています。何でもかんでも会社から出資するというわけにはいかないものですから、文化財団でできること、また個人でできることで観光誘致をしようと思っています。

---

## 課題がある日本の教育

日興：今後の構想についても伺えますでしょうか。

似鳥：福祉財団や教育財団など、他には大学経営も考えています。今の偏差値で大学に入学するという風潮は間違っていると思います。大学で学んだことで、社会に出て活かされたことがあるかと言ったら、少ないと考えています。欧米の大学の教育は、帰納法とか演繹法といったありとあらゆるものから正解を探し出すという方法です。私は演繹法の問題を見つけてから原因を究明して改善と改革を行うという方法をずっとやっています。社会に出たらこれが一番重要で、お客さまにとっての問題を見つけるということです。これを社会に出て、会社でできるようになるまでに4、5年はかかるため、大学時代や高校時代に教えてほしいと思っています。

私は発達障害だと公表しています。自分の名前を漢字で書けたのが小学6年生で、整理整頓もできないのです。記憶力がなく、何でも忘れてきてしまいます。それからADHDもあり、落ち着きがなく、人の話を聞いていてもフワフワしてしまい集中できないのです。「何？」と聞き返すため、妻に「あんた、人の話聞いてない」とよく怒られています。それでも北海道の私立では一番の北海学園大学の編入試験で合格し、皆に驚かれたこともあります。知能が足りないと言われても、世の中に出たら成功できたのです。

観察、分析、判断、それと一番はロマンとビジョンです。日本の暮らしをアメリカに追いつかせ、追い越させるということを60年かけてやってきました。そのためには第1期の30年の10年ごとの計画を10年後さらに役立てるためにはどうするかと言うと、過去の分を全部否定しなければなりません。それはやはり観察、分析、判断です。私も社員も、毎日それを徹底的に訓練してできるようになりました。

一流大学を出たかというのは仕事とは全然関係ありません。一部の頭のいい人は、自分こうだとか意思表示をしがちですが、アメリカを素直に見てまねるとか、素直に聞いて実行するという素直さが一番だと思います。今回第一線で40代の執行役員を9名選任したのですが、有名私立や国立大学の出身はほとんどいません。

また、自社製品の90%は海外の商品で、工場も海外にあります。海外にどんどん人を送りたいのですが、英語力が課題です。そのため、社内で試験をやって、海外希望の方にはTOEICで700点以上取ってくださいと言っています。600点だと候補に挙がってくるため、社内で教室を開いています。子どものときが一番、勉強しなくても自然に身につけてしまうため、中国語や、英語は文法中心ではなく英会話を中心に幼稚園時代から教育した方がいいと思います。

---

## 長所を活かせる社会の実現

日興：寄付事業についても伺えますでしょうか。

似鳥：奨学財団の修士生は3分の1ほどですが、授業料が高いため修士から博士に進む人が年々減ってきているのを問題視しています。

一昨年、京都大学の湊総長の依頼で、返済不要な奨学金制度へ建築家の安藤忠雄氏とそれぞれ10億円の寄付をしました。入団式では湊総長にもご発言していただき、安藤氏にも来ていただきました。学生の発表は、本格的な研究論文のようで驚いたそうです。北海道大学にも2億円寄付しました。北海道はITの地産地消で、ITの人材は毎年10名ほど採用しています。弊社のIT部門に400名ほど在籍していますが、東京と北海道で半分ずつに分けて採用しています。財団の中で雇用機会の創出や寄付講座などに取り組んでいます。



京都大学CFプロジェクト 京都大学提供

東大の先生が中心になった発達障害のお子さまに向けた組織があります。運営資金のために1億5000万円寄付しました。勉強会は京都の對龍山荘、品川の志高荘、それから熱海、軽井沢などの私どもの施設を使ってもらっています。小学生や中学生、高校生に付き添って、保護者の方もきますが、皆さんどうしたらいいか迷っているのです。私は発達障害の代表として、子どもの頃はこうでしたと、今現在こうなっているのはなぜかと話すと、保護者の皆さんは欠点をいろいろ気にするわけです。しかし、社会に出てからも欠点はいくら直されても直らないのです。だから何でもいから長所を見つけるべきです。

私は対人恐怖症で接客はできません。どもり症で汗をかいてしまい、ものすごく緊張するため、きちんと話ができないのです。広告の営業マンで営業に行っても、1件もとれなくてクビになり、住み込みだったのですが6か月で住むところがなくなって困ったときもありました。それは性格だから仕方がないです。

24歳で、独身で商売を始めたけれども、商品が売れませんでした。お客さまに「きちんと説明して」と言われても簡単な説明しかできません。80万円で売りたくても実際は40万円でしか売れないため、黒字にならないのです。紆余曲折あったのですが、8回目のお見合いで田舎から出てきた妻と結婚しました。妻は接客上手だったので売上げが倍になり、貯金ができるほどではないけれど、売れるようにはなりました。私は配達と商品の仕入れをしているうちに、妻に「あんた、もっと売れるものを仕入れてきなさい」と怒られてしまいました。つまり、安

いものでも5%、10%ではなく、3割安いものです。3割安いと黙っていても購入してくれるため、説明が少なく済むのです。1割だと相当説明しなければいけないのですが、2割なら少し楽になります。そのため、目標は30%でしたので、問屋で仕入れするのをやめて、メーカーに仕入れに行きました。そうすると3割ぐら



札幌で家具店を開業 ニトリホールディングス提供

い安くなりますが、メーカーは問屋の支配下ですので、ばれて取引をやめると言われたのです。そこで北海道から東北、関東、関西、九州まで行って、追い詰められて台湾に行きました。それが海外からものを入れるようになった経緯です。1985年のプラザ合意のときで、1ドルが250円から120円になったため、私には運があるのだと思います。そして、27歳のときに2店目を建てたときも、5倍大きい競争相手がいたため倒産しそうになりアメリカに行きました。そこで、日本は50年、60年遅れていることに気づき衝撃を受けました。それまでは売上げや儲けを気にしていたけれども、そうではなく、日本の人々をアメリカなみに豊かにするという目標に変えたら、運が向いてきました。

波乱の人生でしたが、商品に対して興味を持つと安く仕入れるとか、品質を良くするとか、興味のあることに集中する、それは発達障害の良いところの一つです。ですから、子どもさんにも100%のうち99%はだめでも、ぜひ一つの良いところを見つけてあげて欲しいです。

日興：財団の財務基盤の考えについても伺えますでしょうか。

似鳥：国民のおよそ7.6%が何らかの障害を有しているといわれています。社員の中にも障害を有した方がいらっしゃいますが、そのような方の採用を拡大してより多くの方が活躍できるように、福祉財団をつくって採用したいと考えています。お金がいくらあっても足りないため、自分の財産をつぎ込むしかないと思っています。ただ、お金はいくらあっても使ってしまうため、毎年配当金を受け取れる株式が財団運営には良いと思います。それを寄付すれば、その分使うことができます。体は一つですから、今は奨学財団と文化財団、今度は福祉財団、そして学校法人というように、一つ一つ完成してからもう一つとやっていきたいです。後悔のないようにできるだけやって、健康に気を使って次の世代に承継していきたいです。

日興：ありがとうございました。

## 日本が誇る文化芸術を守り、つなげる



独立行政法人日本芸術文化振興会  
理事長

長谷川 眞理子氏

東京大学理学部助手、専修大学法学部助教授～教授、早稲田大学政治経済学部教授、総合研究大学院大学葉山高等研究センター教授、同大学先端科学研究科教授～科長、同大学理事・副学長～学長を経て、2023年4月より現職。1996年 Human Behavior and Evolution Society Best Poster Award、2001年日本進化学会教育啓蒙賞、2012年日本動物行動学会日高賞を受賞。2023年旭日中綬章を受章。著書は『私が進化生物学者になった理由』（岩波現代文庫、2021年）、『人、イヌと暮らす 進化、愛情、社会』（世界思想社、教養みらい選書、2021年）、『進化的人間考』（東京大学出版会、2023年）など。

日本芸術文化振興会は、国立劇場を始めとする劇場・施設を通して世界に誇れる日本の文化芸術の振興と普及に取り組んできました。文化芸術活動への助成や、新たな観客層への取組、持続的に発展する伝統芸能を通して人々の多様な幸せの実現を目指す「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」等について、長谷川理事長にお伺いしました。

### 日本における文化芸術振興の中核的拠点

日興：まずは、日本芸術文化振興会の概要や沿革についてお聞かせいただけますでしょうか。

長谷川：日本芸術文化振興会は、1966年に日本の伝統芸能の保存及び振興を目的とする特殊法人国立劇場として設立されて以来、半世紀を超えてその役割を果たしてきました。1966年に国立劇場が開場、その後、1979年に国立演芸場（国立演芸資料館）、1983年に国立能楽堂、1984年に国立文楽劇場、2004年に国立劇場おきなわが開場し、これらの劇場を拠点に伝統芸能の公開、伝承者の養成、調査研究などの事業を展開してきました。

1989年には現代舞台芸術に関する事業が追加され、1997年に新国立劇場が開場、さらに1990年に芸術文化振興基金が設けられ、文化芸術活動に対する助成事業を開始すると、法人の名称も特殊法人日本芸術文化



国立劇場 日本芸術文化振興会提供



国立演芸場 日本芸術文化振興会提供

振興会に改められました。2003年には独立行政法人に組織形態を移行し、日本における文化芸術振興の中核的拠点としての使命を帯びています。

また2019年には、「日本の美と心」を発信する文化の祭典「日本博」の事務局を担うことになり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその前後の期間に、全国で事業を実施してきました。2022年からは「2025大阪・関西万博」に向けた「日本博2.0」として、新たな展開を図っています。

## 多様な文化芸術活動への支援

日興：文化芸術活動に対する助成事業について伺えますでしょうか。

長谷川：より多くの方が文化芸術に親しみ、自らの手で新しい文化を創造する環境を醸成するため、芸術文化振興基金と文化芸術振興費補助金によって全国の文化芸術団体等へ助成を行っています。

芸術文化振興基金は、政府からの出資金と民間からの出せん金を原資とした運用益等によって助成を行うもので、芸術団体が行う創造・普及活動、地域の文化振興活動、文化団体による文化の振興・普及活動を対象にしています。

一方、文化芸術振興費補助金は文化庁から交付を受けた補助金であり、それを財源として、より多くの国民に鑑賞機会を提供するための優れた舞台芸術の創造活動や、国際的な実演芸術の公演活動、劇場・音楽堂等の機能強化等に資する活動、優れた日本映画の製作活動などに交付しています。

助成金の交付対象活動は、毎年度公募を行い審査の上で決定しています。理事長の諮問機関として芸術文化振興基金運営委員会を設置し、その下に6つの部会と14の専門委員会を置いて、



国立能楽堂 日本芸術文化振興会提供



国立文楽劇場 日本芸術文化振興会提供



新国立劇場 日本芸術文化振興会提供



国立劇場おきなわ 日本芸術文化振興会提供

各分野の実情を踏まえた審査を行っています。

また、これら文化芸術への支援策をより有効に行うために、アーツカウンシル（専門家による助言・審査・評価・調査研究等）機能の強化に努めています。具体的には、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、調査研究に加え、新たに文化施設、映画の各分野に、専門家であるPD（プログラムディレクター）やPO（プログラムオフィサー）を配置し、その知見を活かして芸術団体等への助言や意見交換等を行うことで、伴走的に芸術団体をサポートしています。

## 国立の劇場として舞台芸術の魅力を発信

日興：伝統芸能および現代舞台芸術の公演事業についても伺えますでしょうか。

長谷川：国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立音楽劇場、国立劇場おきなわの各劇場において、歌舞伎、文楽、舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、大衆芸能、能楽、沖縄の組踊など多岐にわたる伝統芸能の公演を行っています。上演に当たっては、周到な調査と準備をかさね、なるべく伝承のままの姿で実施するよう努めており、歌舞伎や文楽では、物語の展開が理解しやすいように見せ場だけでなく、その前後の場面も通して上演する通し上演（「通し狂言」）を基本としています。その上で、上演の途絶えている演目の復活なども積極的に行っています。例えば、今年の国立劇場5月、9月文楽公演では三大名作の一つである『菅原伝授手習鑑』を通し上演しておりますが、今回は上演機会が稀な部分も含んでおり、このような本格的な通し上演は、1972年以来51年ぶりです。また、国立劇場の公演の方針はある程度守りつつも、時代の変化とともに新作の上演や、舞台映像の動画配信にも取り組んでいます。

新国立劇場では、国際的にも高い水準のオペラ、バレエ、現代舞踊、演劇といった現代舞台芸術の公演を上演しています。公演は、オペラ、舞踊、演劇の各部門の芸術監督がそれぞれの部門の最高責任者となり、演目の決定や制作を行っています。



国立劇場 5月文楽公演  
『菅原伝授手習鑑』丞相名残の段  
（左）菅丞相：吉田玉男（右）伯母覺寿：吉田和生  
撮影：田口真佐美 国立劇場提供



新国立劇場 オペラ「ラ・ボエーム」2023年公演より  
（c）寺司正彦 新国立劇場提供

---

## “面白さ”を体感する機会の創出

日興：伝統芸能の新たな観客層への取組も伺えますでしょうか。

長谷川：実演を交えた解説と名作の鑑賞で構成した鑑賞教室は、国立劇場開場の翌年の1967年以来毎年実施しており、現在では歌舞伎、文楽、能楽、沖縄の組踊等の各分野で行っています。それぞれの芸能の特徴や魅力、また当日上演する演目の内容について丁寧にご紹介することで、大人から子どもまで幅広い世代の方や、初めてご覧になる方にも分かりやすい内容になっています。解説を聞いてから観るのとそうでないのとでは、楽しみ方が全く違います。

夏休みには親子向けの教室や、社会人向けに夕方から開演する教室もあります。最近では外国人の方向けに、英語による解説や、英語のイヤホンガイドや字幕も用意した Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、Discover NOH & KYOGEN という公演も実施しています。

最近では外国人旅行者の方も増えてきましたので、そうした方も含めた新たなお客さまに向けて伝統芸能の魅力伝える取組は、これからも一層強化していきます。



国立劇場 6月歌舞伎鑑賞教室・Discover KABUKI  
「解説 歌舞伎のみかた」解説：中村虎之介（右）  
撮影：田口真佐美 国立劇場提供

## 次世代を担う伝承者の養成

日興：伝統芸能の伝承者の養成事業についても伺えますでしょうか。

長谷川：伝統芸能の次世代を担う伝承者の養成も振興会の重要な事業であり、国立劇場開場直後から取り組んできました。関係団体のご協力の下、歌舞伎は歌舞伎俳優と歌舞伎音楽（竹本、鳴物、長唄）、文楽は太夫、三味線や人形、そのほか大衆芸能（寄席囃子、太神楽）、能楽（ワキ方、囃子方、狂言方）、組踊（立方、地方）の伝承者を養成しています。しかし、最近は研修生の応募も減っているため、次世代の後継者を育てる研修事業はなかなか苦労しています。

この度、より効果的かつ効率的な養成事業を行うために各分野を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」を新たに立ち上げ、戦略的な広報宣伝活動等を行い、養成事業への理解の拡大に努めることとなりました。少子化も進んでいるため、もう少し具体的な背景を研究する必要があると考えています。

また、私が小・中学校の頃は、音楽や美術の時間に、日本の伝統芸能というのはほとんどありませんでした。それが2008年に学習指導要領が変わって、日本の古典芸能もカリキュラムに加わりましたが、まだまだ小・中学校で歌舞伎や文楽、能についてきちんと教えられる先生が少ないのです。何も知らないで大人になってから聞くと、小さい頃から、何でもいから触ったことがある、聞いたことがある、小・中・高で基礎的なことを見るチャンスがあるのでは捉え方が全く違うと思います。

やはり生の舞台を一度観ていただきたいです。社会的にもみなさんに「何とかしなくては」と考えていただける方向に持っていきたいと思います。

## 伝統芸能の継承・発展を支える調査研究と情報化の推進

日興：調査研究活動についても伺えますでしょうか。

長谷川：国立劇場の開場以来、国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で上演された公演を録音・録画・写真等で記録してきました。これらの資料は、この半世紀の伝統芸能の舞台を現在に伝える貴重なコンテンツとなっています。このほかにも、これまで収集・保存してきた博物・図書資料など収蔵資料のデータベース化を推進し、デジタルコンテンツとして「文化デジタルライブラリー」等で公開することで、国内外を問わず、いつでも、どこでも、だれでもオンラインで資料にアクセスできることを目指しています。

デジタル・アーカイブ化を推進する作業は大事ですが、それがどのような効果をもたらしたかを分析することも、私どもの仕事としては大変大切だと考えています。

## 「日本の美と心」を国内外へ発信

日興：「日本博」関連事業やインバウンドについても伺えますでしょうか。

長谷川：「日本博」は東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、文化芸術の祭典として2019年に始まり、オリパラの前後約4年間に1,000を超える数多くの事業が開催されました。2022年、「日本博」は2025大阪・関西万博を目指した「日本博2.0」として継続す

文化デジタルライブラリー  
<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>

※ QRコードもしくは上記 URL からご覧いただけます。  
※ WEB上では URL をクリックしていただくとリンク先ページに移転します。



ることが決定し、これまでの公演や展覧会等の単発のイベント支援から、劇場や美術館等の「文化資源」の魅力さをさらに磨き上げていくことで、来場者満足度やブランド力の向上を目指し、インバウンド需要にも的確に答えていくスキームへと変更されました。

事業実施の枠組には、国からの委託費により国立文化施設や地方公共団体、文化芸術団体等と協働で企画し実施する委託型、事業を公募して、その事業費の一部を補助する公募助成型、財政的支援は伴わない参画型があります。

「日本博 2.0」のターゲットはインバウンドであり、日本を訪れるべき目的地として認知され、多くの訪日外国人の皆さまに日本文化の多様な魅力をお楽しみいただけるよう、戦略的・一体的なプロモーションも行っています。



国立能楽堂ショーケース 初心者向けワークショップ  
国立能楽堂提供

## 「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」

日興：国立劇場の再整備計画についても伺えますでしょうか。

長谷川：国立劇場は開場から 55 年以上が経ち、老朽化が著しく一刻も早い建物全体の再整備が必要です。国立劇場と国立演芸場は今年の 10 月で一旦閉場し、再開場まで長い再整備期間に入ります。この一連の事業を「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」と名付け、「新たな国立劇場がめざすもの」として「伝統芸能が人をつなぎ、未来へつながる」を基本理念に、事業の実施プランを策定いたしました。新たな国立劇場は設計、建設、維持管理、運営支援を PFI 事業者が実施し、民間のノウハウを生かした事業展開を図ります。

国立劇場周辺は最高裁判所や国会議事堂などが集まっているという場所柄、あまり人がにぎわう街ではありませんが、新たな国立劇場は、民間企業が経営するホテル、レストラン、ショップ、カフェを併設し、魅力あふれ賑わいのある文化観光の拠点となることを目指しています。多様な人々が伝統芸能に出会い、楽しみ、学び、交流できる「グランドロビー」を新たに設け、

より多くの人々が伝統芸能を身近に感じられるように努めていきます。

再開場までは、他の劇場施設をお借りして国立劇場の公演を継続していきます。12月の文楽鑑賞教室は足立区千住のシアター1010、来年1月の歌舞伎公演は新国立劇場の中劇場で公演を行うことになっています。

再整備期間中に、全国の劇場で試験的な公演をやってみるということもあるかもしれません。民間の企業や関係団体の皆さまと積極的に共同事業を展開していくなど、この機会に新たなことが開拓できればいいなと考えています。



グランドロビー等  
イメージ  
(左) 体験型展示のイメージ(舞台の再現)  
(右) ミニ実演やワークショップ、ライブ映像視聴、公演等と連携したイベントのイメージ  
日本芸術文化振興会提供

日興：最後に、財務基盤についてのお考えも伺えますでしょうか。

長谷川：文化芸術全体を取り巻く状況は厳しいですが、文化芸術振興、普及のために事業を継続することは振興会の使命です。主な財源は国からの交付金、補助金、そして入場料収入などの自己収入ですが、多様な財源の確保も求められています。

将来にわたって事業を継続、発展させていくためには、振興会の事業を多くの方に知っていただき、応援してくださる方を増やすことが必要です。去年はクラウドファンディングを行い、また「初代国立劇場さよなら公演」では、SMBC日興証券株式会社さまをはじめとする各企業さまから、パートナー企業としてご協賛をいただくなど、様々な方法で外部資金の獲得も取り組んできました。

今の世界の潮流の一つとして、SDGs、持続的な開発への貢献が課題とされています。人間らしく生きていくためには水や空気と同じように、文化芸術もやはり必要です。その最前線にいる私どもは、文化芸術の向上をリードする存在であり続けたいと考えています。

日興：ありがとうございました。

## 日本画を通じた社会貢献



公益財団法人山種美術財団  
理事長

### 山崎 妙子氏

東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程を経て1991年後期博士課程修了。学術博士。藝大大学院では美術史の研究に加え、日本画家・平山郁夫氏に日本画の手ほどきを受ける。1991年、山種美術財団理事・山種美術館特別研究員。副館長を経て、2007年5月、山種美術財団理事長兼山種美術館館長に就任し、現在に至る。著書に、『速水御舟の芸術』（日本経済新聞社）ほか。各種イベント、英語ガイドツアー、休館日を利用した地域への社会貢献（小中学生のための鑑賞会）などを実施し日本画の普及を幅広く行っている。

山種美術財団は、近代日本画を中心とする美術作品の収集・保存や一般公開等を行う山種美術館の維持運営を中心に行っています。日本の伝統的な美意識を日常に感じることを大切に、次世代の日本画家を育成することや、日本画の魅力を世界に向けて発信、未来に継承するための取り組みについて山崎理事長にお伺いしました。

### 創設者と画家の親交

日興：まずは、山種美術財団の概要や沿革からお聞かせいただけますでしょうか。

山崎：山種美術財団は1965年に設立され、山種美術館は1966年7月に東京・日本橋兜町に日本初の日本画専門美術館として開館しました。

創業者である祖父の山崎種二（山種証券〔現SMB C日興証券〕創業者）は、86銭という僅かばかりのお金だけで群馬の田舎から上京し、親戚の米問屋で丁稚奉公しました。奉公先のご主人が床の間の江戸琳派の作品を掛け替えるのを手伝いながら、自分も独立したらこのような絵を持ちたいものだと夢見ていたようです。

種二は大正末期に独立して自分の店を持った時に、江戸琳派の酒井抱一が描いたという赤い柿の実の絵を購入したのですが、後に偽物だということがわかり大変なショックを受けたそうです。しかし、種二はそこで諦めるのではなく、自分と同時代の画家の作品を、画商の紹介で購入すれば偽物をつかまされることはないと考え、様々な展覧会を見て回り自らの目を養いました。そして、「絵は人柄である」という信念のもと、多くの画家と親しく交流したのです。

戦時中の食糧難のさなかには、米問屋の出ということもあり、疎開先の川合玉堂までお米を届けるなどして大変喜ばれたそうです。また、東京大空襲で横山大観の自宅が焼失してしまっ

たときには熱海の別荘を提供しました。大観はここを「嶽心荘」と名付け、5年程滞在して作品の制作をしていた時期もありました。山口蓬春には戦後、疎開先から引き上げた後の1年間、葉山の別荘をお貸ししました。葉山を大層気に入った蓬春は住まいを見つけて購入し、東京美術学校（現：東京藝術大学）の同窓である建築家の吉田五十八<sup>いそや</sup>氏に頼み素晴らしいアトリエを新築してもらいました。ここは、現在、山口蓬春記念館として残っています。



横山大観《心神》1952(昭和27)年 絹本・墨画淡彩  
山種美術館提供



川合玉堂《早乙女》1945(昭和20)年 絹本・彩色  
山種美術館提供

## 世の中のためになることをやったらどうか

日興：横山大観の言葉をきっかけに財団を設立されたそうですね。

山崎：はい。祖父母はもともと戦前から「これだけ絵が集まってきたから、美術館にしたいね」と話していたところ、特に親しくしていた大観からの「金儲けも結構だが、このへんで一つ世の中のためになるようなことをやっておいたらどうですか」という言葉に背中を押され、1965年に山種美術財団を設立しました。種二が個人で集めたコレクションをもとに、翌年の1966年7月には、東京・日本橋兜町の山種証券本社ビルの8・9階に、日本初の日本画専門美術館として山種美術館を開館しました。

その後も、コレクションを充実させていきました。たとえば、1968年に完成した皇居の新宮殿を訪れた種二は、そこに飾られた東山魁夷を始めとする安田靉彦、山口蓬春、上村松篁、橋本明治らの作品に感銘を受け、「一般の方は宮殿へ行けないのだから、新宮殿の絵と同種の絵を誰もが見られる場所に飾りたい」との思いから、これらの画家に制作を依頼しました。その結果、その時に依頼した作品は、多くのお客



旧美術館内観 山種美術館提供  
写真上：8F 展示室 写真左：9F 入口

様が当館で楽しく鑑賞でき、宮殿をしのぶことができるようになったのです。

また、開館10周年である1976年に、旧安宅産業が所蔵していた速水御舟作品を購入しました。2代目館長の富治は財界の方々のご縁が深かったことから、当時、住友銀行の常務だった樋口廣太郎氏が安宅産業の破綻の際に、最初に富治へお声掛けくださったのです。富治は熱海で療養していた種二にすぐに相談に行き、吉祥寺にあった土地を売って作品を一括購入しました。種二がすでに所蔵していた作品15点とあわせて、120点の御舟作品を所蔵することになりました。同年開催の35日間の速水御舟展には約8万人の方が来場し、山種証券本社ビルの1階から美術館のある9階までの階段に人が並んだ程、人気の展覧会になりました。1935年に40歳で夭逝した御舟の作品は秘蔵されていて、それまで公開されることが少なかったため、「幻の画家」とも称されていたことから、新聞の社会面の記事にもなるほど大変な評判を呼びました。



速水御舟《炎舞》【重要文化財】  
1925(大正14)年  
絹本・彩色 山種美術館提供

## 受け継がれる精神

日興：画家との交流を大事にされ、非常に素晴らしい作品を揃えてこられたのですね。

山崎：山崎種二、富治、そして現館長である私も画家の皆様とのお付き合いがあります。画家との密接な関係、交流というのは当館の特徴の一つです。画家の方々は、先ほど述べました通り、種二や富治に様々な世話をもらったという思いを持ってくださった様で、同じ画題の中でも、特に良いものを当館に譲ってくださっています。このことから名品が揃っているという経緯があると思います。同時代の日本画を中心に収集していたのですが、江戸時代の絵画や浮世絵、油絵なども自然に集まってきました。特に、浮世絵は良好な保存状態のため色残りが良いと、浮世絵の専門家からも高い評価をいただいております。また、山崎家の自宅の洋間に掛けていた油絵も全て美術館に寄



竹内栖鳳《班猫》【重要文化財】  
1924(大正13)年 絹本・彩色  
山種美術館提供



酒井抱一《秋草鶉図》【重要美術品】  
19世紀(江戸時代)  
紙本金地・彩色 山種美術館提供

付しています。

富治は、加山又造、平山郁夫、横山操の3人の画家の方々と特に親しく交流していました。山崎富治を含め、4人とも名前に「山」がつくということで、「<sup>よもやまかい</sup>四方山会」という会をつくり、富治が企画しては頻繁に集まっていたことから、3人の先生方の作品も収蔵しています。

当館には、岩佐又兵衛《官女観菊図》、椿椿山《久能山真景図》、竹内栖鳳《班猫》、村上華岳《裸婦図》、速水御舟《炎舞》・《名樹散椿》、と6点の重要文化財を収蔵しています。

昭和以降の重要文化財はもともと非常に少ないのですが、それに初めて指定されたのが速水御舟の《名樹散椿》で、京都の昆陽山地蔵院（通称：椿寺）の八重散椿が描かれています。2023年9月から11月に開催する「日本画聖地巡礼」展では、この《名樹散椿》をはじめ、定宿のホテルからの京都の景色を描いた東山魁夷《年暮る》、徳島の鳴門の渦潮をとらえた奥村土牛《鳴門》など、画家が訪れた全国各地を描いた作品を展示します。



奥村土牛《鳴門》1959(昭和34)年  
紙本・彩色 山種美術館提供



速水御舟《名樹散椿》【重要文化財】1929(昭和4)年 紙本金地・彩色  
山種美術館提供



東山魁夷《年暮る》1968(昭和43)年  
紙本・彩色 山種美術館提供

## 日本美術を体験できる空間づくり

日興：現在の山種美術館の施設概要についても伺えますでしょうか。

山崎：空調等の老朽化のため、創立の地である日本橋兜町から千代田区三番町へ仮移転したのち、2009年に広尾に新美術館を開館して現在に至ります。設計を日本設計に依頼し、2010年「グッドデザインアワード2010」を受賞しました。建物のコンセプトは、「品位と格調のある建築」、「時代に流されない普遍的な価値」、「ゆとりを感じられる居心地の良い空間」です。



山種美術館外観 (c)Koike Norio  
2009 山種美術館提供

また、来館者がアートをより身近に感じていただけるよう、展示以外にミュージアムショップとカフェにも工夫を凝らしています。ミュージアムショップは、展示室と同じフロアにあり、鑑賞の余韻をそのままに、お買い物をお楽しみいただけます。コレクションの持ち味を活かしたデザインで、普段使いしやすいグッズを提供しています。



カフェでは、青山の老舗菓匠「菊家」に特別にオーダーした和菓子や、美術館にちなんだメニューをお召し上がりいただけます。特に和菓子は、展示作品に描かれた花や、動物、風景などをモチーフに、展覧会毎に異なる和菓子を提供しており、他では味わうことができないため、お客様に喜んでいただいています。



写真上：ミュージアムショップ  
写真下：オリジナル和菓子「散椿」  
山種美術館提供

## 日本の伝統的な美意識を日常に

日興：2014年制定の基本理念「美術を通じた社会貢献」について伺えますでしょうか。

山崎：「山種美術館は『美術を通じた社会貢献』という創立者の理念を継承し、日本の自然や風土の中で磨かれてきた日本画の魅力を未来に引き継ぎ、人々に感動や発見、喜びや安らぎをもたらすことができる美術館を目指します。」という基本理念があります。

種二は「美術を通じて社会、特に文化のため大いに貢献したい」という言葉を残しているのですが、その思いを「美術を通じた社会貢献」という理念として、時代に即したかたちで引き継ぎながら、大切にしてきました。受け継がれてきた精神や価値観を開館50周年を機に基本理念として明文化したものです。

日本はヨーロッパなどに比べると、美術館に行くというのがそれほど習慣化していません。しかし、これからはテクノロジーの進歩によって時間に余裕が生まれるかもしれません。そういったときに美術館を訪れて、鑑賞後には作品から受けた美術品の魅力をご家族やご友人と共有していただくことで、皆様の心を豊かにするきっかけの一つになればと思っています。

よく、人との出会いは一期一会、と言いますが、私は、絵との出会いも一期一会だと思っています。同じ絵でも、また、20代で見た時と50代、70代で見た時では見え方が違うかもしれません。ある方がいらしたとき、速水御舟の《炎舞》をご覧になって「あら、思ったより小さ

---

かったのね」と私におっしゃいました。その方は御舟の絵が大変お好きで、何度も見にきてくださっているのですが、前回ご覧になったときから年月が経っていたため、ご自分の中ではもっと大きな絵だと思っていらしたのかもしれませんが。絵というのは写真で見ても大きさがわからないですし、良い作品は大きく見るとも言いますので、実際に見ると、このような意外な驚きもあります。

また何か他のことに夢中になっている若い頃は、道端の草花や夕焼け空というものにはあまり目が行かなくても、ある程度の年齢になると緑や花々の美しさ、あるいは空や星といった日本の四季や景色の美しさ愛でるように、自身の心情が変わっていく場合があります。絵も同様で、その時の年齢や状況により、同じ絵でも見え方が変わり、自分の心に強く迫ってくるようなシチュエーションがあると思います。

フランスのルーヴル美術館で《モナ・リザ》を見たことがある方は多いと思います。しかし、海外なのでなかなか何度も見には行けないため、一度見たということだけで満足されるかもしれません。一方で日本の美術館でしたら、一度見たからそれで終わりではなく、定期的に美術館に足を運び、何度も同じ絵を鑑賞するという経験をしていただきたいと思っています。

私は大学院の頃に非常に尊敬していた日本画家の平山郁夫先生に、「良いとされるものをとにかく自分の目で見なさい、それが基本だ」と教えられました。たとえば、平安時代や奈良時代から評価されてきたものには、画家の素晴らしい心や魂がこもっており、それが長い時を経て人を惹きつけるのではないかと思います。AIが絵を上手に描けるようになったとしても、人間の画家がその絵に対してつぎ込んだ時間や熱量は、AIには到底作り出せないものであり、人間のそうした力は、今後ますます大事になってくると思います。当館の展覧会などを通じて本物の絵に触れる機会をつくっていただきたいです。

## 日本画の魅力を発信するために

日興：山種美術館賞やシンボルマークについて伺えますでしょうか。

山崎：日本画の奨励・普及活動の一環として、1971年に「今日の日本画山種美術館賞」（以下、「山種美術館賞」）を創設しました。若い日本画家を発掘し、日本画を奨励するためにつくった賞です。1997年までの隔年14回にわたって実施した「山種美術館賞」展は、当時、新人の登竜門として広く注目を集め、多くの日本画家がこの賞をきっかけにして大成していき



Seed 山種美術館 日本画アワード 2016年大賞  
京都絵美《ゆめうつつ》  
2016(平成28)年  
絹本・彩色  
山種美術館提供

ました。

この「山種美術館賞」は美術記者や画商、美術史家などからの推薦制でしたが、2016年の開館50周年という節目を機に一般公募に変え、2016年、2019年に「Seed 山種美術館 日本画アワード」(以下、「Seed」展)として開催しました。また、2022年の開催はコロナ禍で2年延期となりましたが、2023年8月16日から9月10日まで作品を公募し、2024年2月に入選作品を展示する予定で現在準備を進めています。

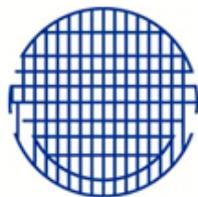


Seed 山種美術館 日本画アワード  
2019年 大賞  
安原成美《雨後のほほ》  
2019(平成31)年 紙本・彩色  
山種美術館提供

「Seed」という言葉には、山崎種二の「種」、山種美術館の「種」、そして日本画の未来につながる「種」を発掘し、育てるという願いが込められています。本展覧会で大賞や優秀賞を受賞したことで知名度が上がり、今では日本橋にある有名百貨店で個展を開催するほど著名になられた方もいらっしゃいます。そのような意味では、かなり多くの若手画家を応援できているのではないかと自負しています。これからも新しい時代に向けた日本画家の育成と日本画の発展に貢献するとともに、日本画の魅力を世界に向けて発信し、未来に引き継いでいきたいと考えております。

50周年を記念しシンボルマークも作成しました。日本を代表するグラフィックデザイナーの佐藤卓氏にデザインしていただきました。また色は、東山魁夷が好んで使用していた「東山ブルー」をイメージし、実際に群青の岩絵具を東山家から拝借して色味を決めました。

このシンボルマークは、謎解きのような凝ったつくりになっています。横組みのアルファベット「YAMATANE」と、縦組みの漢字「日本画」が重なってできた形です。横組みの「YAMATANE」の文字は縦線を長くし、縦組みの「日本画」の漢字は横線を長くして、格子状に組み合わせ、外形を円にしました。当館のHPに掲載している映像、もしくは図解をご覧ください。この意味がお分かりいただければ、この意味がお分かりいただけると思います。



山種美術館シンボルマーク 山種美術館提供

<https://www.yamatane-museum.jp/2015/10/symbolmark50th.html>

※ QRコードもしくは上記 URL からご覧いただけます。  
※ WEB上では URL をクリックしていただくとリンク先ページに移転します。



日興：財務基盤の強化や新しい事業活動についても伺えますでしょうか。

---

山崎：様々な手法で保有財産の効率的な運用を行っております。他方、事業基盤の強化として、入館料以外に、コロナが契機となり、2020年にクラウドファンディングを実施したところ、多くの方にご支援いただきました。さらに、現在は常時、寄付を受け付けており、これらの浄財を所蔵品の修復などに活用しております。

また、私どもは今まで会員制度を行っていませんでしたが、今年5月から当館初となる会員制度「山種メンバーズ」を開始しました。年間フリーパス、同伴者割引、ショップ・カフェ割引や会員様だけの特別鑑賞会等の特典があります。会員の皆様に喜んでいただけるものと考えております。

## 作品に触れる機会の創出

日興：2026年に迎える開館60周年に向けた、新しい取り組みについても伺えますでしょうか。

山崎：様々な媒体や仕掛けを通じて日本美術に触れていただくことを考えています。たとえば、コロナ禍をきっかけに2011年から取り組んでいたSNSに加え、オンライン上で作品鑑賞ができる「オンライン展覧会」や、オンライン講演会・講座を展開しています。特に日本画の描き方のオンライン講座を配信したところ、約500名もの方にご参加いただきました。現在は、リアルとオンラインの両方を使い分け、サービスの拡充を目指しています。

また、若年層の方にも日本画に触れていただきたいと考え、2019年に、女性向け恋愛ゲームとのコラボイベントを2回開催しました。当館で作品を所蔵している日本画家・横山大観と菱田春草がキャラクターになっているため、二人の作品をモチーフにした和菓子の提供をしました。鑑賞イベントでは、私が大観と春草の作品の前で、二人の交流や作品について解説し、約100名の女性ファンの方においでいただきました。コラボをきっかけに日本画を好きになり、当館の定着したお客様になってくださった方も数多くいらっしゃいます。また、大手電気通信事業者が運営しているスマホゲームにも当館の作品の画像を提供しています。携帯に登録している方が気軽に遊べるコンテンツで、かなり人気のゲームになっていると開発会社から伺っています。

Wi-Fiや館内コンテンツも整備しました。今年5月から、お客様の利便性の向上のために、Wi-Fiサービス（無料）を開始しました。お客様がWi-Fiを利用できることに加え、展覧会のみどころや作品解説（音声解説）、和菓子やミュージアムショップの最新情報が満載の当館オリジナル「館内コンテンツ」を公開しています。これらは日本語と英語の両言語に対応しており、

---

音声解説も英語でも聞くことができます。旅行者や在住の外国人のお客様もさらに取り込んでいきたいと考えています。

## 日本画の魅力を一人数多くの方に

日興：最後に、今後の構想について伺えますでしょうか。

山崎：2024年に開催予定の「Seed」展では、日本画の絵具だけでなく、たとえばアクリル絵具を部分的に使っても良いとしています。今は日本画と他の絵画との区別や線引きが非常に難しいのですが、やはり日本独特の絵画である日本画の未来を担う方々を応援していくことは、私どもにとっては最も重要な使命の一つではないかと思っています。私どもは小さな私立の美術館ですので、経営は決して楽ではありませんが、若手の日本画家を応援する「Seed」展は大事な事業として長きにわたり継続していく所存です。

日本画は一見、敷居が高いと思われがちですが、実はそうではなく、どなたにでも親しみやすいものだと感じていただけるような展示会のテーマやタイトルを、常に考えています。作品解説は、学芸員が研究成果として書いた論文のような難しいものにはしないで、高校生以上の方が読んで容易にわかるような内容と表現を心掛けています。また、中学生以下は大人の同伴が必要ですが、無料でご入館いただけます。若いときから日本画に触れて欲しいとの願いからそのようにしています。

これまでのお客様は50代以上の女性が約80%でしたが、コロナ禍でそのようなお客様が少し減り、逆に若い方々が増えました。春、夏、冬の学校が休みの時期には、高校生、大学生の入館料を半額にするなど、若い方が気軽に見に来られるようにと考えています。現在、コロナ禍が落ち着いてきたため、これまで私どもの美術館のファンだった方々に加え、幅広い年齢層の方々に来ていただき、「楽しかった」、「心に響いた」と言っていただけるような展示会を目指しています。

日興：ありがとうございました。



山種美術館『上村松園・松篁』展展示室内  
山種美術館提供



山種美術館『速水御舟』展展示室内  
撮影：小池宣夫 山種美術館提供

# SDGs に取り組む団体のご紹介 第 5 回

## 東京都住宅供給公社 (JKK 東京) ～ひとと、くらしをあったかく～



JKK 東京は住まいを通じて、都民の暮らしを支え、社会に貢献することを最も大切な使命として、先駆的な取組にも果敢に挑戦し、東京の未来を創造します。

### JKK 東京の目指す方向性



### 事業概要

- **公社住宅管理事業**  
当社の軸事業。都内の広範囲に多様な住宅を提供。子育て・高齢者世帯等の住宅確保要配慮者の入居機会を確保。若年世帯の入居促進で多世代共生を実現
- **公社住宅再生事業**  
1964年度以前に建設した住宅を対象に計画的に建替え・集約等を実施。建替えにあたっては少子高齢社会への対応や地域まちづくりとの連携など社会的要請にも対応
- **少子高齢対策事業**  
建替えにより創出した用地を活用し、保育所や特別養護老人ホームといった子育て支援施設・高齢者支援施設等の整備・誘致を推進
- **受託事業**  
東京都から都内全域の都営住宅等、約 27 万戸の管理を受託



## ～ハード・ソフト両面から団地再生を推進～

より多様な世代・世帯、多彩なライフスタイルやニーズに対応した住宅を供給していきます。

ハード

建替え前（大蔵住宅）  
1960年管理開始



間取り / 広さ	2K	27.44 m <sup>2</sup>	32.85 m <sup>2</sup>
平均家賃	44,397 円		

建替え後  
（カーメスト大蔵の杜）  
2022年管理開始



間取り / 広さ	1DK ~ 3LDK	33.25 m <sup>2</sup> ~ 67.13 m <sup>2</sup>
平均家賃	107,900 円 ~ 189,900 円	

コミュニティ活性化及び住宅確保要配慮者の入居機会の確保に取り組みます。

ソフト

カーメスト大蔵の杜で「防災フェス」を開催



子育て世帯や高齢者等に対する入居支援制度の充実



近居であんしん登録制度



こどもすくすく割



ステップ35割



高齢者等優先  
申込制度



子育て世帯等優先  
申込制度

## ソーシャルボンド・フレームワークの概要

本フレームワークに基づく調達資金は、以下のプロジェクトに充当されます。

- 資金使途の対象となる人々：住宅確保要配慮者（子育て世帯、新婚世帯、高齢者、障がい者、被災者等）

主な社会的課題	対象プロジェクト	主な対象プロジェクト小分類	プロジェクト概要
新たな日常に対応した住まい方の実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフスタイルや社会状況の変化に対応した住まいの提供</li> <li>● コミュニティ活性化に向けた取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 働き方や健康に対する意識の変化などの新たなニーズに対応した住まいと住環境を提供</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住宅確保に配慮を要する都民の居住の安定</li> <li>● 住まいにおける子育て環境の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公社住宅管理事業</li> <li>● 公社住宅再生事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て世帯や高齢者等に対する入居支援制度の充実</li> <li>● 行政等と連携した入居支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て世帯や高齢者等に向けた倍率優遇や優先申込、また近居希望者や新婚世帯等を対象とした家賃減額などの入居支援制度を充実させ、住宅確保要配慮者の入居機会を拡大</li> <li>● 住宅セーフティネット制度を活用した、ひとり親世帯をはじめとする住宅確保要配慮者に向けた住宅提供など、地元自治体の住宅施策と連携した取組を推進</li> </ul>
災害時における安全な居住の持続		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災機能の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建替え等により創出した用地に広場などの避難場所となるオープンスペースを整備するとともに、マンホールトイレ、防災井戸、かまどベンチ等の避難時に必要な機能を整備</li> </ul>

IR 情報 <https://www.to-kousya.or.jp/ir/index.html>

※右記 QR コードもしくは上記 URL から IR 情報をご確認いただけます。  
※ WEB 上では URL をクリックしていただくとリンク先ページに移転します。



33

図表は東京都住宅供給公社提供の資料を基にSMBC日興証券作成

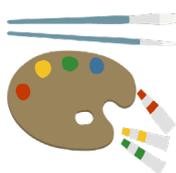
## 編集後記

今夏は暑さに耐え切れずに購入したハンディファンを片手に、4年ぶりの開催となる地元町会の御輿の揃い渡御や山車の揃い巡行を見て、夏祭りの熱気を味わうことができました。

日本の夏の風物詩が戻ってきたのも束の間、今号の表紙は一足早く秋の訪れを告げるデザインです。繊細な色彩の夜空を背景に、一年で一番美しく見える秋の月と月見団子を描いていただきました。

一般的に、日本では月の模様を「ウサギが臼と杵で餅をつく姿」と見ますが、月の模様は世界のどこから見ても同じです。国が違えば文化も異なるため見え方は様々です。芸術も同様に、誰かと同じ物を観ていても見え方や感じ方は違い、それを楽しむことができる存在です。気候が穏やかで過ごしやすい「芸術の秋」に、美術館や劇場に足を運んでみるなど、秋の楽しみの一つに加えてみてはいかがでしょうか。

今年の中秋の名月は9月29日です。ぜひ表紙とあわせて、空の月を眺めながら秋の夜長をお楽しみください。次回12月号もどうぞご期待ください。(萩谷)



### バックナンバーのご案内



「こうえき」のバックナンバーはQRコードもしくはURLからご覧いただけます。  
※WEB上ではURLをクリックしていただくリンク先ページに移転します。

<https://www.smbcnikko.co.jp/corporate/public/magazine/index.html>

## 公益法人向け情報誌 こうえき 第22号

- 発行日  
2023年9月1日
- 発行元  
SMBC日興証券株式会社 公益法人業務部 制度調査課
- 責任者  
井手 雄紀
- 編集者  
萩谷 佳菜恵 / 加太 祐介



ニトリダイニングみんなのグリル環七梅島店を訪問しました。ニトリグループは衣食住全てをカバーするというコンセプトのもと、ステーキチェーンのフランチャイズを運営していましたが、自ら展開を始めたのがニトリダイニングです。

ステーキチェーンの小さめの店舗を引き継いでいるため、ファストファミレスという形態をとっており、メニューはグリルが中心になっています。まずはチキンステーキとハンバーグをいただきました。チキンステーキにライス、スープ、サラダのセットをつけて1000円を切る価格設定です(2023年7月末時点)。チキンの鶏肉は海外から仕入れ、品質の安定を図っているとのことでした。チキンは240gとボリュームがありますが、味付けは程よく、後味がすっきりしています。卓上のワサビが味を引き立てます。この価格帯でこの品質のワサビが使用されているのは珍しいと思います。ハンバーグは合い挽き肉を使用し、似鳥会長自ら試食を繰り返したものです。どちらにもほっくりしたベルギー産のポテトが添えられています。米もライスロボに最適なものをテストして採用しています。メニュー全体にニトリの仕入れ、運営のノウハウが活かされているようです。

デザートはダッチベイビー(ドイツ風パンケーキ)と北海道ソフトクリーム。ダッチベイビーは鍋(スキレット)に入れて提供されます。ソフトクリームは乳固形分が多い本格的な仕立てです。廉価でありながら最大限の工夫がなされています。「お、ねだん以上。」の哲学がここでも実現されていました。



筆者撮影「ニトリダイニングみんなのグリル環七梅島店」

## 【免責事項】

本資料は有価証券その他の投資商品の売買の勧誘ではなく、情報提供のみを目的に SMBC 日興証券株式会社（以下「当社」といいます。）が作成したものです。本資料は、当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成していますが、これらの情報が完全、正確であるとの保証はいたしかねます。情報が不完全または要約されている場合もあります。本資料に記載する価格、数値等は、過去の実績値、概算値あるいは将来の予測値であり、実際とは異なる場合があります。かかる価格、数値等は予告なしに変更することがありますので、予めご了承くださいませようお願いいたします。本資料は将来の結果をお約束するものではありませんし、本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客さまの判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません。本資料は、本資料を受領される特定のお客さまの財務状況、ニーズ又は投資目的を考慮して作成されているものではありません。本資料はお客さまに対して税金、法律、投資上のアドバイスを提供する目的で作成されたものではありません。投資に関する最終決定は、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、お客さま向け資料等をよくお読みになり、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料に含まれる情報は、提供されましたお客さま限りでご使用ください。本資料は当社の著作物です。本資料のいかなる部分についても電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の事前の承諾なしに複製または転送等を行わないようお願いいたします。本資料に関するお問合せは当社公益法人業務部制度調査課までお願いいたします。本資料に記載された会社名、商品名またはサービス名等は、当社または各社の商標または登録商標です。

## 【店頭デリバティブ取引に類する複雑な仕組債について】

仕組債の評価額は、弊社が自ら評価・算定し、もしくは同業者その他の金融機関等から入手し、公正妥当な現在価値との認識のもとに提供する「評価・算定時価」情報です。これらの価格は通常の取引単位を前提とした場合の参考値であり、お取引を締結する際に実際に用いられる価格を表すものではなく、当該価格において弊社が売買取引等の約定を保証するものではありません。仕組債は、中途売却を想定した商品ではありません。流通市場が存在していない等の要因により、中途売却を希望されても売却価格が購入価格を大きく下回るおそれがあります。

## 【金融商品取引法第 37 条（広告等の規制）にかかる留意事項】

本資料は、法制度 / 税務、自社株評価、相続 / 事業承継、株主対策 / 資本政策、オファリング、M&A/IPO、年金 / 保険等の諸制度に関する紹介や解説、また、これに関連するスキーム等の紹介や解説、およびその効果等に関する説明・検証等を行ったものであり、金融商品の取引その他の取引の勧誘を目的とした金融商品に関する説明資料ではありません。記載の内容にしたがって、お客さまが実際にお取引をされた場合や実務を遂行された場合の手数料、報酬、費用、その他対価はお客さまのご負担となります。なお、SMBC日興証券株式会社（以下「当社」といいます）がご案内する商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。たとえば、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式等（売買単位未満株式を除く）の場合は約定代金に対して最大 1.265%（ただし、最低手数料 5,500 円）の委託手数料をお支払いいただきます。投資信託の場合は銘柄ごとに設定された各種手数料等（直接的費用として、最大 3.30%の申込手数料、最大 4.50%の換金手数料または信託財産留保額、間接的費用として、最大年率 3.64%の信託報酬（または運用管理費用）およびその他の費用等）をお支払いいただきます。債券、株式等を募集、売出し等または相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いいただきます（債券の場合、購入対価に別途、経過利息をお支払いいただく場合があります）。また、外貨建ての商品の場合、円貨と外貨を交換、または異なる外貨間での交換をする際には外国為替市場の動向に応じて当社が決定した為替レートによるものとします。上記手数料等のうち、消費税が課せられるものについては、消費税分を含む料率または金額を記載しています。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成されていますが、明示、黙示にかかわらず内容の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。また、別段の表示のない限り、その作成時点において施行されている法令に基づき作成したものであり、将来、法令の解釈が変更されたり、制度の改正や新たな法令の施行等がなされる可能性もあります。さらに、本資料に記載の内容は、一般的な事項を記載したものに過ぎないため、お客さまを取り巻くすべての状況に適合してその効果等が発揮されるものではありません。このため、本資料に記載の内容にしたがって、お客さまが実際に取引をされた場合や実務を遂行された場合、その期待される効果等が得られないリスクもあります。なお、金融商品の取引その他の取引を行っていただく場合には、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況（財務・経営状況を含む）の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ（元本欠損リスク）、または元本を超過する損失を生ずるおそれ（元本超過損リスク）があります。なお、信用取引またはデリバティブ取引等（以下「デリバティブ取引等」といいます）を行う場合は、デリバティブ取引等の額が当該デリバティブ取引等についてお客さまの差し入れた委託保証金または証拠金の額（以下「委託保証金等の額」といいます）を上回る場合があると共に、対象となる有価証券の価格または指標等の変動により損失の額がお客さまの差し入れた委託保証金等の額を上回るおそれ（元本超過損リスク）があります。また、店頭デリバティブ取引については、当社が表示する金融商品の売り付けの価格と買い付けの価格に差がある場合があります。上記の手数料等およびリスク等は商品ごとに異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。なお、目論見書等のお問い合わせは当社各都店までお願いいたします。また、実際の取引等をご検討の際には、個別の提案書等をご覧いただいた上で、今後の制度改正の動きに加え、具体的な実務動向や法解釈の動き、およびお客さまの個別の状況等に十分ご留意いただき、所轄の税務署や、弁護士、公認会計士、税理士等の専門家にご相談の上、お客さまの最終判断をもって行っていただきますよう、お願い申し上げます。

商号等 SMBC日興証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 2251 号  
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本STO協会

（2023 年 9 月 30 日現在）

